

○「水防災意識社会再構築ビジョン」とは

施設では守り切れない大洪水は必ず発生する

平成27年9月関東・東北豪雨では、記録的な大雨により鬼怒川の堤防が決壊し、広範囲かつ長期間にわたる浸水、堤防近傍の家屋が氾濫流で倒壊・流出、多数の孤立者が発生しました（右写真）。

近年頻発している集中豪雨等により、**施設では守り切れない大洪水は必ず発生する前提**にたつて防災を意識し、逃げ遅れる人をなくす、経済被害を最小化するなど、**減災の取り組みを社会全体で推進**していきます。



○「水防災意識社会再構築ビジョン」の3つのポイント



ポイント1：ソフト対策

より実効性のある「住民目線のソフト対策」を実施します。

大洪水になったとき、早めに避難をしなくてはならない区域はどこかといったリスク情報を積極的に開示します。また、水害時の避難勧告等の発令に着目した事前の防災行動計画(タイムライン)を策定し、訓練を重ねます。

さらに、携帯電話に洪水情報をプッシュ型で配信することにより、水害時の住民の主体的な避難を促進します。



ポイント2：ハード対策

「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」に加え、「危機管理型ハード対策」を導入。

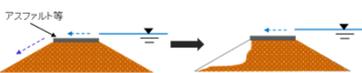
川から水があふれないようにする「洪水氾濫を未然に防ぐ」対策に加え、水があふれてしまった場合でも、堤防が決壊するまでの時間を少しでも延ばす「危機管理型」の対策を導入し推進します。

堤防天端の保護

堤防天端をアスファルト等で保護し、堤防への雨水の浸透を抑制するとともに、越水した場合には法層部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす

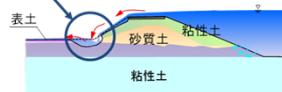


堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている。



堤防裏法尻の補強

裏法尻をブロック等で補強し、越水した場合には深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防裏法尻をブロック等で補強

※ 具体的な工法については検討中

ポイント3：地域一体の取組

「河川管理者・都道府県・市町村等で協議会を設置し、ハード・ソフト対策を一体的、計画的に推進します。」

協議会において、現状の水害リスク情報や減災に係る取組状況、課題等を共有して、概ね5年間で達成すべき減災に関する目標を定め、具体的な取組内容を「地域の取組方針」として策定して進めます。

関係機関が連携して取組を推進し、住民に呼びかけを行うことで、地域一体で水防災意識社会を再構築していきます。



大規模水害に対する氾濫被害の最小化のため
「避難する・防災力を育てる・地域を守る」
北上川上流洪水減災対策協議会

水防災意識社会再構築ビジョンとは

○北上川上流における水防災意識社会再構築ビジョンの取組（北上川上流洪水減災対策協議会）

「水防災意識社会再構築ビジョン」の推進のため、「北上川上流洪水減災対策協議会」を設立し、平成28年8月29日に「北上川上流の減災に係る取組方針」を策定しました。[\(平成29年12月27日 見直し\)](#)

【構成員】

北上川上流流域8市7町（盛岡市、花巻市、北上市、遠野市、一関市、八幡平市、奥州市、滝沢市、雫石町、岩手町、紫波町、矢巾町、西和賀町、金ケ崎町、平泉町）
気象庁盛岡地方気象台、岩手県、国土交通省東北地方整備局（岩手河川国道事務所、北上川ダム統合管理事務所）

○北上川上流の減災に係る取組方針

5年間で達成すべき目標

舟運文化により沿川に形成された市街地の水害リスクが高い北上川上流において、家屋浸水した平成14年7月、平成19年9月洪水や、平成25年の局所的大雨による洪水等、これまでの教訓を踏まえ、発生しうる大規模水害※に対し

「避難する・防災力を育てる・地域を守る」

ことで、氾濫被害の最小化を目指します。

- 避難する** ⇒ 流域住民が主体的に水害リスクを把握し、人命を守ること。
- 防災力を育てる** ⇒ 地域防災力を維持・継続・強化すること。
- 地域を守る** ⇒ 水防団が実施する水防活動や河川管理者が実施する排水活動等に加え、流域住民も参画し、地域の人命と財産を守ること。

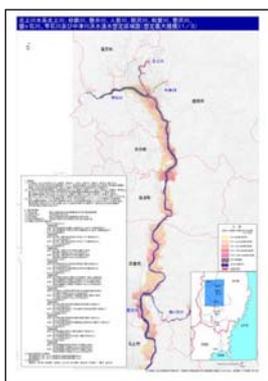
※ 大規模水害………想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水氾濫による被害

目標達成に向けた3本柱の取組

北上川上流において、被害の最小化を目的として、河川管理者が実施する堤防整備等の洪水を河川内で安全に流す対策に加え、以下の項目を3本柱とした取組を実施します。（図、写真は取組イメージ）

①安全な避難行動のための取組

○水害リスクに関する情報提供等の充実



洪水浸水想定区域図の公表



市街地での洪水痕跡に関する情報表示（例）

②地域防災力を維持・継続・強化するための取組

○正しい知識の周知・定着



講習会の実施



防災・河川環境教育を取り入れた学校授業の実施

③人命と財産を守るための取組

○住民自らが避難行動するために必要な情報提供の充実



洪水予報等の情報をプッシュ型で配信

プッシュ型の洪水予報（イメージ）

自分のいる場所の近傍の情報は川の防災情報等により確認



洪水ハザードマップを利用した洪水に対しリスクが高い箇所の共同点検



照明車による夜間作業の支援



大規模水害に対する氾濫被害の最小化のため
「避難する・防災力を育てる・地域を守る」
北上川上流洪水減災対策協議会